

第 3 期中期目標期間の業務実績に関する
評価委員会における提言（平成 30～令和
5 年度）

素案

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る第3期中期目標期間（平成30～令和5年度）の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、下記のとおり取りまとめた。

記

【教育】

- 令和6年度より大学院医学研究科が分野横断的な統合型大学院である医薬総合研究科として発展的改組（再編）することに伴い、シンポジウムやパンフレット作製等の広報活動により入学志願者の確保を図ったが、大学院入学者数について、修士課程及び博士課程ともに依然として定員を大きく下回る状況が続いている。これまでの取組以外に入学者確保につながる抜本的な対策を講じられたい。
- 医学部基礎系の教室における研究の活性化は以前から改善が求められている。また、大学院医学研究科における博士課程入学者の大部分が社会人学生で長期履修制度を利用しているなどの現状において、大学院生における十分な研究時間の確保や修学環境・体制の充実についても大きな課題とされてきた。大学院生の研究に関する希望・満足度調査を実施し、実態をよく分析するとともに、大学院教育・研究体制のめざすべき方向性を検討したうえで、課題解決に向けたより一層の取組を講じられたい。

【研究】

- 研究の活性化を図るうえで、客観的な指標となる英語原著論文発表数や大学院生の論文発表数が増加傾向にある一方で、各教室及び各研究者の年間研究成果及び研究の質を評価する具体的な取組について、今後検討し、質の高い独創的な研究が実践されることを期待する。
- 先端医学研究所において、令和元年度に高齢化に伴い増加が予想される疾病であるがん、感染症、循環器疾患などの予防、診断、原因解明を行う新設部門として「分子病態解析研究部」を開設するなど、先進的な課題に取り組み、研究成果も向上していることから、今後先端医学研究所の規模等を発展させるなど、更なる研究成果の向上につながる対策を検討されたい。

【診療】

- 県内唯一の大学附属病院として、高度先進医療などの先端的な診療成果が得られるような取組が積極的に行われるとともに、医療の質の向上のため、各種疾病に対する診療の成果について、診療実績に係るデータ等を活用し、適切な評価方法を検討されることを期待する。

【地域貢献】

- 県内の安定した地域医療提供体制の堅持のため、これまでも様々な取組をされていることは評価するが、医師の地域偏在や診療科偏在の解消に向けて、地域医療機関からの医師派遣要請に対して大学内で一元的に取りまとめたうえで、各講座から適正な医師派遣を実施する体制を構築するよう検討されたい。

【業務運営】

- 医師の働き方改革について、令和6年4月から医師に対する時間外労働の上限規制の適用が開始されることに伴い、教育・研究・診療・地域医療に悪影響が及ぶことがないように、タスクシェア・タスクシフト、チーム医療体制の導入及びDX等による業務の効率化を含めた様々な取組を推進していく必要がある。法人全体が一丸となって現場の意見を積極的に取り入れながら対策を進め、誰もが働きやすい職場環境の実現に向けて取り組まれることを期待する。

【財務状況】

- 近年の燃料価格の高騰による電気・ガス料金の高止まりや物価高、人件費上昇による診療経費の増加など、今後も厳しい財務状況が続くことが想定されており、健全な法人運営を行うために策定した経営計画を着実に実行するとともに、適切な財務分析に基づく検証と見直しにより、運営基盤の強化を図られたい。